

2020年7月10日 第3329回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 岡田 会長
- <斉 唱> 「手に手つないで」
- <ゲスト紹介> *元外務省 元サウジアラビア（他3か国）駐箚特命全権大使
東京海上日動火災保険(株) 顧問 奥田 紀宏 様
*一般財団法人中東協力センター（JCCME） 審議役 三 東 尚 志 様
*大和証券(株)横須賀支店 支店長 長谷川 誠 剛 様
- <会 長 報 告> *第1グループ三役会 報告
- <委員長報告> *VTT特別委員会 藤村委員長より報告
*久保田会員よりVTT報告書について
*出席委員会 小林(-)委員長より第1グループ他クラブ7月例会について
- <幹 事 報 告> *第1期分会費納入のお願いについて
*例会終了後第1回理事役員会開催（例会場）
- <出 席 報 告> *出席委員会 小林(-)委員長より7月10日の出席報告

| 会 員 数 | 出席対象者数 | 出 席 数 | 欠 席 数 | メークアップ数 | 出 席 率 |
|-------|--------|-------|-------|---------|--------|
| 112名 | 104名 | 79名 | 25名 | 3名 | 78.85% |

<ニコニコ報告>

- ・三 役 元外務省 奥田紀宏様、ようこそ横須賀RCへ。卓話よろしくお願ひいたします。
- ・臼 井、福 西、杵 渕、江 沢、佐久間、藤 村、澤 田、
植 田、前 田、高橋 倫、宮 島、長尾、Enora、前 川、齋藤 眞、
谷、上 林、勝 間、松本 朋、宮 島、長 坂、徳 永 各会員
元外務省 奥田紀宏様ようこそお出で下さいました。卓話楽しみにしています。
- ・小 山、岩 崎 両会員 誕生月祝いとして
- ・上 林 会員 入会月祝いとして
- ・木 村、田 中、梁 井、田 村、畑、高橋 倫、川 出、福 西、
小山 眞、瀬 戸、齋藤 眞、久保田、大 竹、江 沢、外 木、齋藤 眞 各会員
初めての1階での例会です。なんか新鮮ですね。
- ・岡 田、中村 備、加藤 備、植 田、齋藤 眞 各会員
プロ野球はいよいよ観客を入れての試合を開始します。スポーツで盛り上り、コロナを吹っ飛ばしましょう。

<卓 話> 「国際社会と普遍的価値」

元外務省 元サウジアラビア（他3か国）駐箚特命全権大使
東京海上日動火災保険(株) 顧問 奥 田 紀 宏 様

ご紹介に預かりました奥田と申します。岡田会長と私との関係ですけれども、ご紹介がありました様に今から50年には至らない、半世紀位前に家庭教師をさせて頂いたという事でございまして、当時の浦賀の二葉の丘の上へ毎週坂を上って行った記憶があります。それが50年後にこういう卓話の輪に繋がったという事で、まるで夢のような話であります。当時の岡田君はいつも朗らかで大変元気な中学生で、がり勉と言うのには全く無縁の方でありまして、しかしながらやるときはやるのだというような気概を持っておられる少年で、私は非常に楽しく一緒に過ごさせて頂きました。その彼が半世紀を経て、社長というだけでも大変な事であるのに、このロータリークラブの会長に今月就任されたという事は私にとっても大変名誉な事

だと思います。しかし、大学を卒業して外務省で働き始めたものですから、横須賀とも岡田君とも縁がなくなりました。普通にいけば、岡田君とはこの世ではないところでお会いすると思いましたが、それがこの様にしてこの世で会っていただけるのは、私が3年前までサウジアラビアにいた時に、今日ゲストとしておられる、三束さんという方が、サウジアラビアのジェットロと中東協力センターの所長をやっていたしやり、ご紹介をして頂いたという事で50年ぶりにお会いする事になりました。その経緯があつて、私と岡田さんと三束さんとで横須賀会というのを作りまして、1年に1回か2回飲み会をするようになりました。コロナ感染症が来るまでは、濃厚接触を非常に楽しんできた仲でありますけれども、今はなかなか濃厚接触が出来なくて非常に残念であります。

さて、このロータリークラブは今年が100年目だと聞いております。こういう古い伝統を持つクラブでお話しをさせて頂くという事は、非常に自分にとっては名誉な事だと思いますし、色々伺いますと、大変立派な方々からこういう卓話をして頂いている様であります。私の今日のテーマは「国際社会と普遍的価値」という若干硬い話なので、他の方々の様にきちとした話が出来るか分かりませんが、外務省にいて中東方面に13年、それからアメリカとかカナダなどの北米に10年位在りまして、日本でなかなか得られないような体験をしてきたので、その間の事を何か日本の皆様にお役に立つ事はないかという事を考えましてお話ししたいと思います。少し忍耐をもって聞いて頂きたいと思ひます。

今、隣の副会長の八巻さんともお話ししてはいたのですが、私は長いこと東京に住んでいますが、元来横須賀出身という事で時々横須賀に帰って来ていました。しかし、残念ながら懐かしのさいか屋百貨店が無くなってしまつて聞いて、私にとって驚天動地の事でありまして、さいか屋の無い横須賀っていったいどんなものなのだという話です。それから人口も少しずつ減っているという事を聞いて、少し寂しく感じております。日本の近代以降の発展をこの横須賀という町は支えてきたわけでありまして、これからも横須賀から日本と世界に打って出ていく、そういう力を横須賀の人々に蓄えて頂きたいと思ひますし、私はどんな役に立つか分かりませんが、何かお役に立つ事があれば、微力を尽くしたいと思ひております。

さて、本題に入ります。国際社会の事を考えて語らなくてはならないテーマでありますけれども、最近の国際社会を語るためには、皆さんもマスクしておられますように、新型コロナウイルスがもたらした影響というものをまず語らざるを得ないのかと思ひます。新聞とか雑誌にもコロナの影響が書いてあり、最大の課題とは何かを私なりに考えてみましたが、何が人間にとって一番重要なのかという質問を突き付けているのだと思ひます。新型コロナウイルスは我々の健康と生活に影響をもたらしますが、もう少し厳しく言えば、我々の命の終わりか、事業の終わりかという危険をもたらすものであり、こうなると人間は、自分の生活の為に何が必要不可欠かをまじめに考えざるを得なくなります。今日のテーマである普遍的価値と言う問題について言えば、これまで、やれ自由だ、人権だ、民主主義だ、法の支配だ、と特に西洋諸国の報道機関などは言っていました、コロナの問題となってくると、これらの問題はあまり論じられなくなってきています。NHKの「麒麟がくる」ではないですが、敵は本能寺だということに我々は気が付いたのだと思ひます。例えば1月頃コロナはまだあまり我々の意識に残っていなかった時には、2020年のオリンピック・パラリンピックは日本人にとって、政治的にも経済的にも大変重要な問題であつたし、個人個人にとつても極めて重要な問題でしたが、今はオリンピックが本当に重要なのか、パラリンピックをやっている場合かと。各種のスポーツ行事や文化イベントも軒並みキャンセルになりまして、本当にこれらが重要なのか、自分たちが生きていくために必要なのかどうかという事を考えざるを得ないのです。普遍的価値なんていう事もどうでもいいのではないかと云わんばかりのコロナの勢いがあります。これは、私がオリンピック・パラリンピックをどうでもいいと言っているわけではないし、普遍的価値という事についてもどうでもいいと言っているわけではなく、一度ここで物事の優先順位を考える必要があるのではないかという事です。

コロナの第二の課題ですが、世界中の指導者や権力者に対して政治的指導力を試す機会を突き付けているという事だと思います。古来なぜ人間は権力に従うのかという問いがあります。これについて日経新聞に、多くの場合強制力で指導者に従うのではなく、従うと自分が得をする事を考えて自発的に従うのだという16世紀のある裁判官の自発的隷従説が紹介されておりました。確かに、人間は通常の場合、権力の分け前にあらずかろうとして権力者に従い、時には付度もするだろうと思ひます。しかし、コロナウイルスには付度は効かないわけでありまして、世界中の権力者に対して付度の効かない指導力に関するストレステストというものを課しているのではないかと思ひます。日本の安倍首相が今どうこなしているのか、トランプ大統領はだいぶ苦勞されている様に見えますけれども、今年の大統領選挙でいかなる指導性を発揮されるのか、国

の指導者だけではなくあらゆる組織のトップの方々に緊急事態におけるリーダーシップの在り方を問うているのではないかと思います。

三番目に、国際社会政治経済システムに対する影響という事をコロナウィルスは突き付けていると思います。私はこの三番目の国際社会システムが今後どうなるかを中心にお話しをしていきます。国際社会の枠組みが大きく変わったのは、30年位前の東西冷戦が終わった時だと思います。その時に有名な Francis Fukuyama という日系米人の学者が書いた「歴史の終わり」という本で、西側の民主主義、自由主義が勝利したので、この後社会制度はこれ以上発展しないだろう、大きな歴史転換はもう起きないだろうと予測しました。30年経ってみると、その予測は外れたと言わざるを得ないというのが私の認識です。少なくとも、私はずっといた中東地域では歴史は今でも厳として続いているし、ひょっとすると大きな歴史の転換点がある可能性もあります。このような大幅な予測違いにもかかわらず、彼は今でも大変影響力を持っているらしく、最近「FOREIGN AFFAIRS REPORT」という外交雑誌にコロナ感染症の結果を予測しているので紹介させていただきます。まず、コロナの結果、世界の権力の配分は、西側から東側に移るだろうと、これは、韓国とか台湾とか中国もそうなのかもしれませんが、コロナに対する対応が非常に良かったという事が一つの根拠になっているのだと思います。東側に権力が移ってくるのは良いのですが、中国がどの位大きくなっていくのか、他方インドや東南アジアの国々がこれからどれ位発展して、中国とバランスをとっていくのかというところを日本としては、見ていく必要があるのかなと思います。

フクヤマさんの言う二番目のコロナの影響は米国の衰退です。これは中国との対比においては既に始まっている事ですが、米国がどのように下降線をたどっていくかはよく分かりません。おそらく日本の外務省の先輩の岡崎久彦さんが言っていた、米国と協調していれば日本の平和と安定は保証されているという伝統的な考え方は大きな挑戦を受けています。したがって、米国は重要ではありますが米国と協調していればそれでいいというわけではなくなくなってしまっているという事を我々は考えておく必要があると思います。

三番目に彼が言うのは国連やWHOに代表される従来のリベラルな国際秩序、国際組織が弱体化するという事です。最近もトランプさんがWHOから脱退すると言っていた事に端的に表れています。日本は1945年の第二次世界大戦敗北後、発展するに当たり大変貢献したこの秩序がこれから弱体化してくるのを目の前にして、どのようにしていくか我々自身が考えていく必要があるのだと思います。

四番目にファシズムが再活性化するのではないかと断言しております。ただし、ネガティブな影響ばかりではなく、最後に自由放任主義の宗教に対してコロナ感染症というものが人間に対して反省をもたらすのではないかと断言しています。

ここから、私の考えを進めたいと思います。この自由放任主義というのは、米国で libertarian という考え方があり徹頭徹尾、国の関与、国の権力を否定する強いイデオロギーがあります。新型コロナウイルスはそういうことを言っている米国に対しても、政府の力がないと大変だということを教えつつあります。そういうこともあって自由放任主義の宗教への反省というものが出てきているのだと思います。しかし、この自由放任主義から更に一歩進めまして、近代の歴史が始まってから支配的だった「神の見えざる手」という考え方への反省が必要ではないかと思います。自由放任主義への反省から、自由主義或いは株主至上主義は行き過ぎたという反省も見られる様です。アダムスミスが「神の見えざる手」と言い始めたのですが、市場における自由競争が最適な資源配分をもたらす自動的な調整機能を意味していると言う説明があります。しかし、この言葉は単なる自動調整機能を意味するのではなく、資源の適正配分をもたらすという事で自己中心的な利益確保の活動を正当化しながら、実は、自己中心主義そのものを正当化してきたのではないかと、利己的な行動を追求すればするほど神の見えざる手がその結果を正当化して、その結果をもたらした自己中心的な行動を更に正当化してきたのではないかと、これが現在の欧米において、ビジネスリーダーでより多く稼ぐ者は、能力が単に高いだけではなく、精神的にも偉いのだという考え方に結び付いている、お金が単に自分の財産を正当化するだけではなく倫理的価値観を正当化するという考えに繋がり、これに対する反省が求められているのではないかと思います。

日本には欧米からの経済学が入ってくる前、神の見えざる手が自分の利己心を正当化してくれるという様な都合のいい考え方はありませんでした。日本の商人は、単なる儲けを上げればいいというのではなく、企業の目的やビジネスにおける信頼信用が大変重要な地位を占めていました。このあたりの事は私が言うのではなくて、幕末から維新にかけて日本に来た多くの外国人がそう書き残し、日本人の生活に西洋にない価値を発見する中で、日本人の仕事のやり方についても感嘆の声を上げています。イザベラ・バードの「日本紀行」や渡辺京二の「逝きし世の面影」などの本を見て頂きたいと思います。即ち日本人にとっては自分よりも、自分の周りの隣人たち

の方が重要だという考え方が伝統的にあって、宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」の詩の一節にも、「アラユルコトヲジブンヲカンジョウニ入レズニ」とあります。このことで日本人は偉いのだとか、クールジャパンだと言って威張ったりする必要は全くないのですが、自分たちの長所をよく理解しておく事が必要なのだと思います。ふとロータリークラブのウェブサイトを見てみましたら、The Four-Way Test というものがあるそうですね。それには物事をするときには、真実かどうか、みんなに公平かどうか、好意と友情を深めるか、4番目にみんなの為になるかどうかを基準にして考えるという事だそうです。2番目から4番目の話はまさに自分を第一に考えずに周りを第一に考えるという立場ではないかと思います。

そういう日本人の持っている特有の価値というものを西洋からきた自由人権民主主義、法の支配というものと比べても全く劣るところがないと思います。周りのことを優先してやるのだという考え方はどこに出しても恥ずかしくないもので、こういう心構えも普遍的価値として共有してもらったいいのではないかと思います。

これまでも日本人の持っている特有の価値があって、例えば東日本大地震の時も大変規律のある、厳しい状況の中でも品のある行動をされたということを海外でも報道しておりました。当時私はエジプトにおりまして、「アラブの春」の革命でエジプト人も大変苦しんでおりました時に、彼らは自分たちの革命を瞬時忘れまして、日本人の普通の人の行動に深く感動をしたのです。デモ隊がカイロの中心地から20キロ位離れたところにある大使館前に来て、日本を勇気付けるためのデモをしてくれたのです。日頃対立しているイスラム教系のデモ隊、世俗的なデモ隊が別々に来て応援をしてくれました。それから、カイロの観光業者のデモ隊は日本語で、「頑張れ、ニッポン」と応援してくれました。それから、カイロの観光業者のデモ隊は日本語で、「頑張れ、ニッポン」と応援してくれました。それから、カイロの観光業者のデモ隊は日本語で、「頑張れ、ニッポン」と応援してくれました。それから、カイロの観光業者のデモ隊は日本語で、「頑張れ、ニッポン」と応援してくれました。

日本人は自分を卑下する事が多いですが、政府部門の人には言いませんけれども、民間部門の普通の方にはもっと自信を持った方がいいのではないかと思います。

最後に、日本は欧米の価値観やビジネスのやり方に追いつけ、追い越せと言いつつ、よくやってきたとは思いますが、まだまだの部分もあるかと思っています。この「まだまだの部分」については相当の努力をする必要があるかと思っています。トップの方々には海外の状況というものを自分の目で見て考えるという事が重要ではないかと思っています。伝統的には昔の言葉で英語屋さんに任せるという事があったようですが、トップ自らが関心を持って自分の責任において短い時間で決断を下していく事が重要だとつくづく思います。トップの人が目の色を変えて仕事をすると下は付いてくるのだと思います。これはコロナ感染症の対策に携わる政治家の方々の話し方とか目の色とかテレビでも出てきますよね。目の色を我々は見ていて、その目の色に打たれてその政治家に従おうとするかどうか差が出てくるのだと思いますので、ぜひ色々な組織のトップの方には海外の状況についてはアンテナを高くして自分の問題としてみていただきたいと思っています。

日本独特の価値というものを国際社会に出していくという事が人類全体を強くするという事に繋がるのではないかと思います。種の多様性というものがありますが、生物は種が1つになると弱くなっていき、コロナ一遍に死滅するという事になります。色々な考え方がある事によって人類は強くなります。したがって日本の伝統的な価値というものを人類の種の多様性に貢献する、これが本当の「国際貢献」ではないかと思っております。横須賀でもぜひ頑張って頂きたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 岡田 会長

週報担当 臼井 健